荒尾市民病院
- Arao Municipal Hospital -

市民を愛する　市民に愛される　病院へ

第26号（平成26年1月発行）

地域医療連携だより 小岱

〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾2600
荒尾市民病院　相談支援センター　地域医療連携室
TEL　0968-63-1115（代表）（内線536）
FAX　0968-62-4543
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　www.hospital.arao.kumamoto.jp/
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

ご挨拶

明けましておめでとうございます。旧年中は、病診連携を密にして頂き厚く御礼申し上げます。有明地域の中核病院として、また、地域医療支援病院として地域医療を確保し、城北地域唯一の地域がん診療連携拠点病院、脳卒中急性期拠点病院、さらに、急性心筋梗塞急性期拠点病院として、今年もさらなる病診連携と地域医療の質の向上をはかり、地域完結型医療を目指して、なお一層の努力を致します。何卒ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

昨年9月9日に本院は、「平成25年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰」を受賞し、厚生労働省講堂での表彰式に出席して参りました。これは、長年の本院の救急医療に対する取り組みが認められ、国からの表彰という形になったものと感謝しております。

さて、当院の地域医療研修センターでは、医師会の講演会、がん診療連携拠点病院としての研修会や講演会、また、有明地域医療連携ネットワークの研修会や一般市民を対象とした市民公開講座や循環器勉強会など、地域医療支援病院として諸種の講演会や研修会に利用していただき、この有明地域の医療の質向上に一役買わせていただいております。
また、「放射線治療センター」は、昨年、前立腺がんの治療に適したIMRTや肺がん治療用の定位放射線治療装置を追加し、レベルアップした最新の放射線治療装置を備えるに至りました。是非、有明地域の多くの患者さんに熊本市内に行かなくとも熊大病院と同等のがん放射線治療ができることを知っていただき、本院の「放射線治療センター」のご利用を切に願っております。

なお、本院の病診連携室は、病院正面玄関の右手にあり、室長の村上看護師長を中心に、看護師2名、社会福祉士2人、精神保健福祉士1人、理学療法士1人、事務職3人の8名体制で、「相談支援センター」として病診連携を中心に行っております。その内容は、ご紹介患者の対応、退院についての相談、支援、あるいは、認定看護師の在宅ケアなどの病診連携とがん患者の諸種のご相談（セカンドオピニオンやがんの悩みなど）に携わっております。お気軽にご利用下さい。

今年も、病院キャッチフレーズ「市民を愛する、市民に愛される病院へ」を目指し、皆様方のご支援ご協力を賜りながら、質の高い医療と安心安全な医療の提供を目指して行く所存です。この有明の地域医療をしっかり守って参りますので、今年も荒尾市民病院をどうぞよろしくお願い致します。

平成26年正月　　病院事業管理者　大嶋壽海

熊本宣言2013
あなたとあなたの大切な人のために
Keep your A1c below 7%

2013年5月16日（木）、17日（金）、18日（土）の3日間、「糖尿病学の進化と絆」をメインテーマとして、第56回日本糖尿病学会年次学術集会が熊本で開催され、合併症予防のために糖尿病発症早期からの良好な血糖管理の必要性を訴えた「熊本宣言２０１３」が公表されました。

糖尿病は、放置すると、眼・腎臓・神経などに細小血管合併症を引き起こします。また、脳梗塞や心筋梗塞などの動脈硬化症も進行させます。糖尿病合併症で苦しむ患者さんの数は今なお減少していません。糖尿病となった方が健康で幸福な寿命を全うするためには、早期から良好な血糖値を維持することが重要です。

血糖の平均値を反映するHbA1c(ヘモグロビン・エイワンシー)を7%未満に保ちましょう。

あなたとあなたの大切な人のために　Keep your A1c below 7%

血糖コントロール目標

糖尿病治療ガイド2012-2013において掲載される「血糖コントロール目標」の改訂図より

	コントロール目標値 注4)		
目　標	血糖正常化を目指す際の目標 注1)	合併症予防のための目標 注2)	治療強化が困難な際の目標 注3)
HbA1c(%)	6.0未満	7.0未満	8.0未満

治療目標は年齢，罹病期間，臓器障害，低血糖の危険性，サポート体制などを考慮して個別に設定する．

注1)　適切な食事療法や運動療法だけで達成可能な場合，または薬物療法中でも低血糖などの副作用なく達成可能な場合の目標とする．

注2)　合併症予防の観点からHbA1cの目標値を7%未満とする．対応する血糖値としては，空腹時血糖値130mg/dL未満，食後2時間血糖値180 mg/dL未満をおおよその目安とする．

注3)　低血糖などの副作用，その他の理由で治療の強化が難しい場合の目標とする．

注4)　いずれも成人に対しての目標値であり，また妊娠例は除くものとする．

学会初日の「新たなHbA1c目標値についての特別声明」の中で「熊本宣言 2013」が行われた

（出典：2013年5月16日付け日本糖尿病学会プレスリリース）

荒尾市民病院の糖尿病診療の取り組み

☆糖尿病透析予防指導管理

代謝・内分泌内科医師（日本糖尿病学会専門医）、看護師（糖尿病療養指導士）、管理栄養士（糖尿病療養指導士）で透析予防診療チームを編成し、透析予防に係る指導管理を行っています。対象は、外来通院中の糖尿病患者さんで、HbA1Cが6.5%（国際標準値）以上または内服薬やインスリン製剤を使用している外来糖尿病患者であって、糖尿病腎症第2期以上の患者となっています。

☆フットケア外来

糖尿病足病変の発症、進行防止、および再発予防のためのフットケア実践・指導を目的とした専門外来を開設しています。対象は、糖尿病足病変がある、あるいは病気を起こす可能性の高い外来患者さんで、ケアの必要性があると医師が認めた方々です。現在、毎週金曜日午前8時40分より予約制にて行っています。

☆外来栄養指導

管理栄養士が、患者さんやご家族に栄養指導を行っています。食事療法は、わかっているのになかなか実行が難しく、間違った情報も氾濫しています。家庭での食事の様子などをお聞きして、まず出来ることから一緒に改善目標を決め、少しずつレベルアップしていく、実行できる栄養指導を目指しています。

※糖尿病透析予防指導管理、フットケア外来、外来栄養指導のご希望がございましたら、

ご紹介いただきますようお願い致します。

認定看護師活動報告

この度、施設様よりご依頼いただき、在宅患者訪問看護指導を行いましたので報告致します。褥瘡を保有される患者さんで、在宅訪問で処置を受けられていますが、褥瘡治癒遅延状態となり困られていました。今回の訪問は、褥瘡のケア法について主に指導させていただき、訪問後施設の方々とカンファレンスを行い終了致しました。

在宅での褥瘡管理は非常に困難で、①少ない資源の中での処置 ②在宅という限られた中でのケアの実施 ③家族に負担がかけられない現状などがあげられます。

在宅医療がますます推進されているにも拘わらず、厳しい現状があります。1週間の中で、在宅へのDr往診・訪問看護・デイケア・ヘルパーなどの方々でそれぞれが連携しながら、日々をカバーされているのをよく耳にします。このような現状を、地域医療で連携する事により、ご家族への負担を軽減されるよう努力されています。在宅患者を支えるには、いろいろな分野での資源が必要となります。一つ二つの力ではどうにもなりません。それぞれの分野で協働することにより、在宅看護が成り立って行くと思います。

平成24年度の診療報酬改定で、効率かつ質の高い訪問看護の推進を目的に訪問看護師と専門性の高い看護師による同一訪問が可能となり、今回当院では初めての実施となりました。今後、このような医療連携を推進していけたらと考えております。なお、具体的な利用方法などは、当院相談支援センターまでご連絡下さい。

皮膚・排泄ケア認定看護師　松北　直美

《病院理念》

荒尾市民病院は地域住民の健康の維持増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指す。

《基本方針》

1. 地域の信頼に応える急性期医療を目指し、最善の医療を提供します。
2. 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。
3. 患者の人権を尊重し、温かい心を持った医療人を育成します。
4. 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します

《患者様の権利》

・あなたは、あなたの病気について必要な医療を受けることができます。
・あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択することができます。
・あなたは、医療の内容についてご自分の希望を申し出る事ができます。

お知らせ

有明地域医療連携合同研修会　開催のお知らせ

日　時　　平成26年1月29日（水）　18：30～19：30（予定）
場　所　　荒尾市民病院　地域医療研修センター（南病棟4F）
演　題　　「（仮）脳卒中について」
演　者　　荒尾市民病院　脳神経外科部長　濵﨑　清利

『患者さん交流クリスマス会』を開催しました

12月23日（月）14：00～『患者さん交流クリスマス会（以下：クリスマス会）』を開催しました。入院患者さんやご家族約120名、協力スタッフを入れると、約170名の参加でした。
今回は、前年度も大好評だった大分のバンド『ブラザーズ』の方が来院され、コンサートを開催していただきました。『ブラザーズ』は元『南こうせつとかぐや姫』のメンバー2人が在籍されているグループで、1960年代～1970年代の懐かしい曲を中心に演奏して下さいました。大ヒット曲の「神田川」や、「なごり雪」「東京」等、本当に素晴らしい名曲の数々でした。
患者さんにとって入院生活は、日常生活から離れて、楽しみや癒しが少ないのが現状と思います。よく、歌には『力』があると言いますが、今回のコンサートが少しでも患者さんにとって気分転換の場となったのであれば幸いです。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
昨年は、本院の地域医療連携に格別のご高配を賜りありがとうございました。
今年は、人の気持ちが良くわかる動物と言われている午年ですねぇ。円満を好み粘り強い性格でもあるようです。地域医療連携室一同、午を見習って地域の皆様方に少しでもお役に立てるように頑張ってまいります。連携室に対してご意見ご要望等がございましたらお聞かせ下さい。又、今年の4月からは、より連携室を充実させるために増員の予定です。
次回は、新しいメンバーを紹介できると思います。　今年もより良い連携だより「小岱」をお届けできるように頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします　。

地域医療連携室　村上